

新しい 学びの場

多様化が進む県内高校文化部

「次のこの横線は長くしよう。うん、いい感じ」。10月下旬、青森市西田沢の県立青森第一高等養護学校で行われた同校と青森北高の書道を通じた交流活動。一高養の生徒たちは青森北高の生徒たちからアドバイスを受けながら、力強い筆遣いで自分の作品を書き上げていた。

徒歩で約20分の距離にある同校は、以前からバラスポーツなどを通じて交流がある。同校によると、書道を通じた交流は青森北高の校長が一高養生の作品展示を見たことをきっかけに2024年度からスタート。本年度は9月に生徒同士で顔合わせをして10、11月の活動で作品を書いたり、お互いの作品を鑑賞したりして感想を交わすなどした。

本年度のテーマは「今、届けたい言葉」だ。一高養生たちは自身で選んだ言葉の「感謝」や「成長」などに挑戦。青森北高生たちは

■一高養と青森北高 書道通じ交流■



書道を通じて交流する一高養生と青森北高生

貴重な機会互いに刺激

流行歌の歌詞や偉人の言葉を漢字仮名交じりで工夫を凝らして表現している。

書道を通じた新しい形の交流は、同校の生徒たちにとっても貴重な学びの場となっている。青森北高芸術部書道部顧問の木村里紗

明。一高養書道部顧問の福

井陽子教諭は「普段の活動ではお手本通りに書くことが多く、自分たちでテーマを決めて自由に書く機会は少ない。一高養生の力強く生き生きとした字は北高生にとって良い刺激になる」と説明。10月29日の活動には青森北高生5人と一高養生3人が参加した。青森北高生たちは「はねるときは、一度止めると上手にできるよ」

「字が少し寄っているから次はバランスを意識してみよう」とアドバイス。一高養生たちは「ありがどう次はそうしてみます」と応じて作品に生かしていた。

青森北高の齋藤柚香さん（2年）は「私たちのアドバイスを聞いた3人が、少しの時間でとても上手に驚いた。線の力強さを自分の作品にも取り入れていきたい」と笑顔。一高養の福井守優さん（3年）は「教えてもらった字のバランスに気がついたら上手に書けた。一緒にできて楽しかったです」と声を弾ませた。

※連載「知りたい！ホントの恐竜」、「やってみよう！おうちで英語」は休みました。

この画像は当該ページに限って

東奥日報社が利用を許諾したものです。